

表5 昭和56年度移動芸術祭巡回公演

公演種目	公演団体	期日	会場
交響楽一 ・ベルリオーズ作曲 序曲「ローマの謝肉祭」 ・ショパン作曲 ピアノ協奏曲第1番	大塚交響楽団	4月6日	松本市市民会館
バレエ 「白鳥の湖」チャイコフスキー作曲	日本バレエ協会	3月10日	いわき市市民会館
一文楽 ・新版歌舞文 野崎村の段 ・御所様桜川夜討 弁慶上使の段	文学座	3月10日	松本市市民会館
ミュージカル 「コーラスライン」	四季劇団	8月10日	二子市民会館
寄席芸能 出演 桂 米丸、三笑亭琴楽、 内海桂子・好江、早野凡平、 龍斎貞水ほか	落語芸術協会	27月1日 28月1日	福島県文化センター 二子市民会館

第十二 第三十四回福島県文学賞

広く県民から作品を公募して、優秀作品を顕彰するとともに、本県文学の振興を図る趣旨で昭和と二十三年度から実施している県文学賞は、本年度で第三十四回目を迎えた。

本年度の県文学賞の作品募集は、八月五日に締め切り、小説、詩、短歌、俳句の四部門に二百十名の応募があった。これは昨年度の二百五十五名に比べて若干少ないが、それでも、昭和五十三年度から連続して応募数が二百名を越えていることは、本賞が県民文学活動の身近な発表の場として、また一つの大きな目標として定着しているものであり、喜ばしいことである。

また、本賞の受賞者の総数が三百八十三名（昭和五十六年度現在）にもほり、各々、県内外で本県文学振興の

表6 第34回福島県文学賞受賞者一覧

賞名	作品名	作者名		年齢	職業	業所
		氏名	本名			
(小説部門)						
文学賞	れんの譜	脇坂 吉子		58	無職	郡山市安積町荒井字上北井前44
準賞	夏の終りに	竹内 ゆき		56	無職	須賀川市諏訪町29
奨励賞	わが苦悩は果てなく	星 啓介		62	自営業(英語塾経営)	郡山市富田町猿鹿野久保22の19
青少年奨励賞	山の寺	斎藤 芳子		51	自営業(農業)	耶麻郡山都町舟岡
青少年奨励賞	海 鳴り	渡辺千香子		19	学生(早稲田大学)	いわき市内郷内町堤田8の2
(詩部門)						
文学賞	散文詩集 象形文字	長久保鐘多	長久保博徳	38	教員(県立小浜高)	いわき市勿来町酒井園根69の2
準賞	燃えきらない部分	菅野 怜子		45	無職	岩瀬郡天栄村大里字宮下69の2
奨励賞	左廻りのパル時計	二上 英朗	吉田 英朗	28	講師(県立相馬農業高校)	伊達郡川俣町新中井93
青少年奨励賞	求めるものは	有我 トモ		17	学生(須賀川女子高校2年)	須賀川市浜尾字漆房54
(短歌部門)						
準賞	あらくさ	鈴木 武		48	会社員(日本重化学工業(株))	福島市飯坂町東湯野字桜田10
	遙かなる道	竹中 里子	小林フミ子	64	自営業(学習塾経営)	喜多方市花園106
奨励賞	山 恋 ひ	石本 英子	石本 ヒデ	77	自営業(書道塾経営)	福島市森合字西中川7
青少年奨励賞	青い夢を見たい午後	紺野美菜子		19	学生(東北学院大学1年)	福島市飯坂町平野殿田150の7
(俳句部門)						
文学賞	炎昼の絹豆腐	小林 雪柳	小林 勇三	46	自営業(豆腐製造業)	大沼郡会津高田町字高田甲2760
準賞	楳	蓬田 代字	蓬田 ヨウ	75	無職	須賀川市南町176
奨励賞	榴 梅	樋口 道三		74	無職	福島市笹木野字北寺畑16
	音	安齋くみ子		33	会社員(飯田橋商事(株))	安達郡安達町淡川上柳川30の16

表7 第34回福島県文学賞応募者地域別内訳

	小説	詩	短歌	俳句	計
県北	17名	14名	13名	15名	58名
県中	9	24	5	5	43
県南	3	3	2	6	14
会津	10	7	6	10	33
南会津	0	0	2	0	2
相双	5	8	5	6	24
いわき	6	7	10	12	35
県外(埼玉)	1	0	0	0	1
計	51	63	43	53	210

ために貢献されており、大変心強い限りである。

さて本年度の応募状況は、小説五十一名、詩六十三名、短歌四十三名、俳句五十三名となっており、昨年と比べて、詩が二十九名減っており、昨年と比べ少年の応募についても昨年四十四名、本年二十八名と十九名減っている。

年齢別の応募状況を見ると、五十代以上の応募者が、六十四パーセントを占め、応募者の平均年齢も、昨年度の四十三歳に対して、本年度は四十八歳と若干高くなっている。今後は、青少年とともに若い人の創作活動が活発化し、応募数が増加することを期待した

十三 家庭劇場

い。本年度の受賞作品は、表6のとおりであるが、残念なことに短歌部門については文学賞に該当する作品がなかった。また、応募者の地区別内訳は表7のとおりである。

なお、受賞作品集である「県文学集No.29」は昭和五十七年三月発行を予定している。

家庭劇場は、本格的な文化施設を有しない地域で、常日ごろ優れた舞台芸術に接する機会が少ない、県民のために、中央の優れた舞台芸術を巡回公演して、家族ぐるみで芸術を鑑賞するこ

とを奨励し、豊かな家庭づくりと地域文化の振興に資する趣旨で実施している。本年度は、県内の二十五町村において、音楽十五公演、児童劇十公演の計二十五公演が開催された。

音楽公演は、ミュージカル・アカデミーの「歌はともだち」として童謡、子供のためのミュージカル・ポピュラーなど十公演、古正美知子と東京パロッドコンサートによる「音楽隊がやってきた」としてこどもの歌、クラシック、世界の民謡など五公演を実施した。また、児童劇は、劇団「風の子」が「トランク劇場」として身近にある紙、びん、ロープ等を使いながら手あそび劇あそびなどの演技を県内十町村で巡回公演した。

各会場とも好評で、どのプログラム